



支出の2大科目だけで
保険料収入を上回る

当健保組合の平成24年度決算は、収入総額29億9879万円、支出総額27億2844万円、差し引き2億7035万円となりましたが、実質的な収支である経常収支においては2億2092万円の赤字となりました。前年度の決算においても経常収支で約7千万円の赤字を計上しており、24年度の赤字額はさらに悪化しています。

収入では、みなさんと事業主から納めていただいた保険料収入が24億6371万円となり、前年度より6689万円減少しました。

前年度より 赤字額増加で 厳しさを増す財政状況に

支出では、みなさんの医療費などとして保険給付費が前年度比1億3251万円減少の12億5197万円となりました。

高齢者の医療費にあてられた納付金については、前年度より2億1339万円増加の12億8438万円となりました。保険給付費と納付金は支出における2大科目であります。この2つの合計額だけで保険料収入を上回りました。

このほか、健診費用などに使われた保健事業費は、前年度より196万円増加の1億839万円となり、みなさんの健康づくりに役立つ事業を積極的に行ってまいりました。

以上の結果、保険料収入だけでは支出をまかないきれなかったことから、繰越金8421万円と、積立金

7月24日に開催された第101回組合会において、平成24年度の決算が可決・承認されましたので、お知らせします。

平成24年度収支決算概要

健康保険

■収入

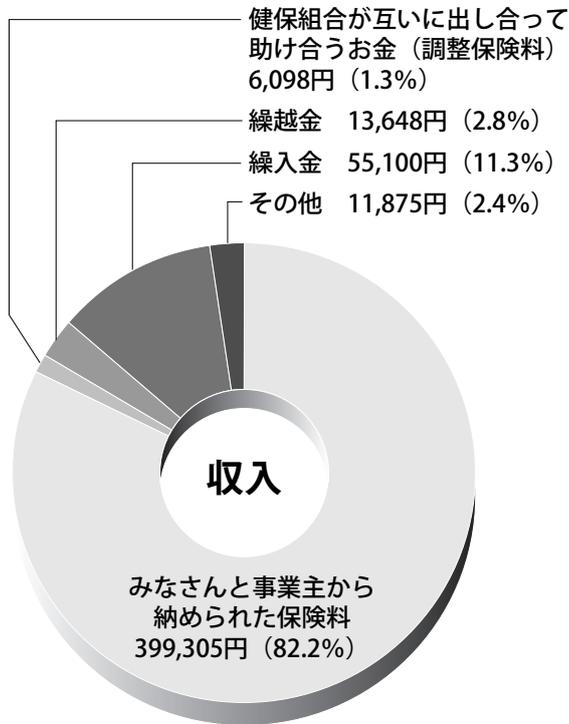
科 目	決算額(千円)
みなさんと事業主から納められた保険料	2,463,712
健保組合が互いに助け合うお金(調整保険料)	37,627
繰越金	84,210
繰入金	339,968
その他	73,268
合 計	2,998,785

■支出

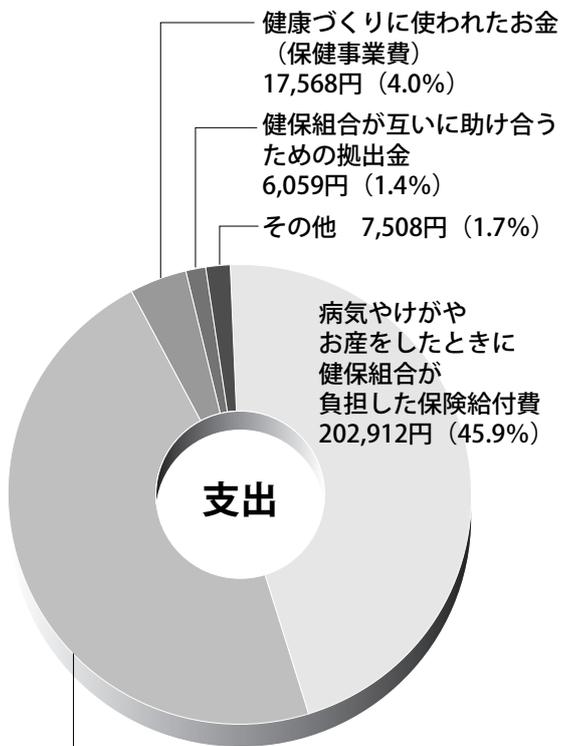
科 目	決算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに健保組合が負担した保険給付費	1,251,973
高齢者の医療に使われた納付金	1,284,377
健康づくりに使われたお金(保健事業費)	108,385
健保組合が互いに助け合うための拠出金	37,381
その他	46,324
合 計	2,728,440

被保険者1人当たりでみた 収支決算(健康保険)

収入合計 486,027円



支出合計 442,211円



高齢者の医療に使われた納付金
208,165円 (47.1%)

※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります

全国の健保組合の約8割が 25年度予算で赤字を見込む

安倍政権発足後、日本経済は少しずつ上向きを示してはいるものの、

より3億3997万円を繰り入れて大幅な収入不足に対応しました。当健保組合は厳しい財政運営を強いられておりますが、事業の実施にあたっては引き続き効率化をはかりながら行つてまいります。みなさんもどうかこの現状をご理解いただき、医療費の節減にご協力ください。よう、お願いいたします。

回復基調にあるというにはほど遠く、我々の多くが景気の回復を実感できるまでには至っていません。長引く経済の低迷は健保組合の運営にも大きな影響を及ぼし、保険料収入の減少や伸び悩みといったかたちであらわれています。先日、健康保険組合連合会(健保連)から発表された「平成25年度健保組合予算早期集計の概要」によれば、全国の健保組合において約8割が経常赤字を見込むとしており、また、保険料率の引き上げを実施した健保組合が約4割にのぼりました。収入が伸び悩む一方で、増大する医療費、高齢者医療制度に対する納

付金など支出負担は大きく、依然として健保組合を取り巻く情勢は厳しいままです。とくに、高齢者医療費としてあてられる納付金が多量にも重く、財政運営を困難にしています。高齢者の医療費は国民みんなで負担し合うものとはいえ、健保組合に過重な負担を押しつける現在の高齢者医療制度は全国の健保組合を疲弊させています。国は高齢者医療制度見直しのための議論を続けていますが、一刻も早い、そして公平な負担のしくみの創設が期待されます。

介護保険

■収入

科目	決算額(千円)
みなさん*と事業主から納められた介護保険料	243,143
繰越金等	5,095
合計	248,238

■支出

科目	決算額(千円)
国に納める介護納付金	240,042
介護保険料還付金	52
合計	240,094

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等